

視点(1393)

SCが20世紀の最強の業態となった生き立ち!!

SCは20世紀が生んだ最強の業態であり、アメリカでは小売業の売上高の61%を占め、日本でも近未来に30%を占めるようになります。

アメリカでは、SCは1930年頃（昭和の初め頃）から初期型SCとして出現し、本格的に登場したのは第2次世界大戦後の1950年頃で、その後1960～1980年に開発が最盛期となりました。日本では、1960年代後半から出現し、1970～2010年に開発が最盛期となりました。このように、日米間には20年のSCの時差があります（初期SCから見ると40年の時差）。

SCと同分類に位置する小売業の中で「市」や「商店街」は世界のあらゆる国や地域で同時に歴史的な背景の中で出現しましたが、SCはアメリカのみで出現した「固有の種を持つ流通業態」なのです。調度、人類が、中央アフリカのジャングルが地球的レベルの季節変化により草原化し、密林の中の猿が草原に適応して人類に進化し、世界に広がった歴史的・自然的事例と同じです。人類は中央アフリカのサバンナのみで、SCはアメリカのみで生まれ発展し、両者とも世界に優位性を持って進出し、世界の中心的役割を果たしています。これを固有の種による進化と言ひ、人類やSCが出現した地域に特殊な自然あるいは歴史的出来事が起こった結果であることを意味します。

人類のことはさておき、SCの出現の固有の背景を示すと次の通りです（六車流：流通理論）。

①産業革命による大量生産経済システムの確立

産業革命は、イギリスやロンドンやドイツに起こり、アメリカで大成功しました。特にアメリカでは、大量生産→大量販売→大量消費というモノづくりビジネス、販売ビジネス、消費ビジネスがシステム的に発展し、大きな消費に基づく経済が確立されました。

②人口の大移動と郊外化現象

産業構造が第1次産業から第2次産業、さらに第3産業へと移動し、地方の人々が職を求めて都会へ、さらに、都会の都心から郊外へと移住し、新しいサバーバン時代を構築しました。人口の集中とニュータウン化は地域の活力を著しく高めました。

③中産階級の出現

大量生産システムは、ブルーカラー層を出現させ、中産階級を増大させ、生産物を販売し、消費するという経済循環を確立しました。過去の貧乏人と金持ちという2極化した消費構造から多くの消費力のある中産階級の出現は、小売業界に大きな活力をもたらしました。

④車社会の到来

T型フォードが量産型自動車として20世紀初期に登場し、従来の「徒歩・自転車」や「鉄道・馬車」の社会から交通手段による利便性を飛躍的に高めました。長距離行動がプライベートな装置で利用できる車は、まさに生活行動範囲を大幅に変えました。

以上のような、4つの経済面かつ生活面での大変革が、今までの「市とか商店街」という小売業の概念を全く変えたSCという業態を創り出し、流通業界の覇権業態となりました。人類がアフリカの特定の地域のみから出現し、動物の中で覇権動物として君臨しているのと同じです。

このように考えるならば、人類もSCも1つの特殊な状況の中で生まれたことは、奇跡的な出来事であったのかもしれませんが。

しかし、現在、先進国では前述したSCの4つの成立要因が希薄化しています。一方、中国やアジアのような新興国家は、まさにSCの成立要因が続々と生まれています。SCの大移動が起こっています。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺₅

代 表 六 車 秀 之